

**(仮称)青森市子ども総合計画策定にかかる
アンケート調査結果報告書**

<⑥ 認定こども園・幼稚園・保育所(園)・学校等関係者用>

**平成27年9月
健康福祉部 子どもしあわせ課**

目次

1 調査の概要	
調査の概要	1
調査区域区分表	2
調査票の回収結果	3
2 調査結果	
問1 所属団体について	4
問2 所属団体の子どもに関する活動内容について	4
問3 活動を効果的に進めるために必要なことについて	5
問4 子どもを健やかに育てるために行政が必要な支援について	6
問5 子ども自身、家庭、地域社会に望むことについて	7
問6 子ども・子育てに関するご意見・ご要望について	8
3 自由記載欄の意見一覧	9

1 調査の概要

調査の概要

1 目的

新たな子ども総合計画(H28年度～H32年度)の策定にあたり、急速な少子高齢化の進行、家庭及び地域を取り巻く環境の変化に対応した次世代育成支援対策を総合的かつ継続的に推進するために、市民ニーズを把握・分析し、新計画に反映させる。

2 調査票及び対象者数

⇒ 6種類、5,005件

① 就学前児童の保護者用	937件	}	2,000件
② 小学校1～6年生の保護者用	1,063件		
③ 小学校4～6年生用	613件	}	2,000件
④ 中学校1～高校3年生用	1,387件		
⑤ 地域・子ども関連団体用	786件		
⑥ 認定こども園・幼稚園・保育所(園)・学校関係者用	219件		

3 調査期間

平成27年7月21日(火)～平成27年8月20日(木)

4 調査方法

調査対象に応じたアンケート調査票を送付し、同封した返信用封筒による郵送での回答(無記名)

5 報告書の見方

- ① 比率は全てパーセント(%)で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出したため、パーセントの合計が100にならない場合がある。
- ② 複数回答が可能な設問では、比率算出の基数は回答者数(票数)とし、その項目を選んだ人が全体からみて何%なのかという見方としているため、各項目の比率を合計しても100%とはならない。

調査地域区分表

地区番号	地区名	地区の範囲
1	東地区	岡造道、合浦、桑原(稲葉)、けやき、小柳、栄町、桜川、自由ヶ丘、田屋敷、茶屋町、佃、造道、筒井、中佃、浪打、虹ヶ丘、花園、浜館、はまなす、東造道、古館、松森、港町、南佃、本泉、八重田、矢作、矢田前
2	中心地区	青柳、奥野、勝田、新町、中央、堤町、長島、橋本、古川、本町、松原、安方
3	南地区	青葉、旭町、浦町、大野、卸町、桂木、金沢、北金沢、久須志、千富町、第二問屋町、問屋町、浪館、浪館前田、西大野、浜田、東大野、緑、妙見、安田、八ツ役(矢作)
4	西地区	油川、石江、岡町、沖館、里見、三内、篠田、千刈、富田、西滝、新田、羽白、三好、柳川
5	東部地区A	浅虫、泉野、後范、久栗坂、三本木、平新田、滝沢、野内、原別、馬屋尻、宮田、矢田、八幡林
6	東部地区B	赤坂、桑原(山崎)、駒込、沢山、諏訪沢、月見野、築木館、戸崎、戸山、蛭沢
7	南東部地区	牛館、大矢沢、幸畑、合子沢、新町野、田茂木野、野尻、雲谷、横内、四ツ石
8	西部地区	岩渡、新城、鶴ヶ坂、戸門、孫内
9	南部地区	荒川、上野、大谷、大別内、金浜、小館、高田、入内、野木、野沢、細越、八ツ役(芦谷、上林)
10	北部地区	飛鳥、後潟、内真部、奥内、小橋、四戸橋、清水、瀬戸子、西田沢、左堰、前田、六枚橋
11	浪岡地区	相沢、王余魚沢、北中野、吉内、郷山前、五本松、下石川、下十川、銀、杉沢、高屋敷、樽沢、大釈迦、徳才子、長沼、浪岡、福田、細野、本郷、増館、女鹿沢、吉野田

調査票の回収結果

対象団体	送付数	有効 回収数	回収率
認定こども園	23	12	52.2%
幼稚園	18	13	72.2%
保育所	76	35	46.1%
認可外保育施設	16	6	37.5%
小学校	45	37	82.2%
中学校	19	14	73.7%
高等学校	13	5	38.5%
特別支援学校	8	7	87.5%
合計	218	129	59.2%

2 調査結果

問1 あなたの所属団体に○をつけてください。

	件数	割合
認定こども園	12	9.2%
幼稚園	13	10.0%
保育所	35	26.9%
認可外保育施設	6	4.6%
小学校	37	28.5%
中学校	14	10.8%
高等学校	5	3.8%
特別支援学校	7	5.4%
無回答	1	0.8%
計	130	100.0%

問2 あなたの所属団体では、地域の子どもや子育て家庭に対し、どのような取組をしていますか。

	主な意見
認定こども園	子育て相談、施設開放、地域活動への積極的参加(町内会との連携、未就園児教室の開設、子育て応援隊の主催)、一時預かり など
幼稚園	子育て相談、施設開放、地域活動への積極的参加(町内会との連携、未就園児教室の開設、子育てサークルの開催)、一時預かり など
保育所(園)	子育て相談、施設開放、地域活動への積極的参加(町内会との連携、地区保育所合同での子育て広場参加、育児講座の開催、地域の高齢者との世代間交流)、一時預かり、学童保育 など
認可外保育施設	一時預かり、延長保育、夜間保育、地域活動への積極的参加(児童館との交流、小学校の夏祭りへの参加)、学童保育 など
小学校	施設開放、地域活動への積極的参加(子ども会)、放課後児童会及び放課後子ども教室への協力、PTAによる家庭教育学級の実施、巡回・安全指導、教育相談 など
中学校	施設開放、地域活動への積極的参加(地域への奉仕活動・清掃活動、地域ねぶた参加)、家庭教育学級の実施、保護者に対するカウンセリングの実施 など
高等学校	施設開放、地域活動への積極的参加、部活動体験、ものづくり教室の開催、地域の小学校との連携 など
特別支援学校	教育相談、施設開放、学校見学会、障がい児保育巡回指導での助言・相談 など

問3 あなたの所属団体の子どもに関する活動を効果的に進めるためには、何が必要だと思いますか。

所属団体	活動機会	場所	情報	資金	マンパワー	自己研修	関係機関との連	意識の高揚	その他
認定こども園	0 0.0%	3 25.0%	9 75.0%	4 33.3%	8 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 8.3%
幼稚園	0 0.0%	3 23.1%	7 53.8%	8 61.5%	5 38.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 7.7%
保育所(園)	3 8.6%	9 25.7%	10 28.6%	19 54.3%	17 48.6%	0 0.0%	3 8.6%	3 8.6%	8 22.9%
認可外保育施設	1 16.7%	0 0.0%	1 16.7%	3 50.0%	3 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%
小学校	6 16.2%	10 27.0%	6 16.2%	16 43.2%	23 62.2%	0 0.0%	4 10.8%	0 0.0%	8 21.6%
中学校	3 21.4%	1 7.1%	3 21.4%	4 28.6%	9 64.3%	0 0.0%	2 14.3%	1 7.1%	5 35.7%
高等学校	3 60.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 80.0%	3 60.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%
特別支援学校	0 0.0%	1 14.3%	3 42.9%	1 14.3%	5 71.4%	1 14.3%	1 14.3%	0 0.0%	2 28.6%
不明	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%
計	16 12.3%	27 20.8%	40 30.8%	59 45.4%	74 56.9%	1 0.8%	11 8.5%	4 3.1%	27 20.8%

※着色した数値は回答率の上位1項目を表す。

◆「マンパワー」(56.9%)と回答した団体が最も多くなっており、平成22年度(36.8%)から20.1ポイント増加している。以下「資金」(45.4%)ー平成22年度(36.8%)から8.6ポイント増加ー、「情報」(30.8%)ー平成22年度(35.2%)から4.4ポイント減少ー、などとなっている。

問4 あなたの所属団体から見て、青森市の子どもを健やかに育むために、行政としてどのような支援が必要と考えますか。

	主な意見
認定こども園	経済的支援(一人親家庭、施設)、子育て情報等の情報提供の充実、子どもの遊び場の拡充、保護者に対する子育てのスキルアップの場の提供 など
幼稚園	子育て情報等の情報提供の充実、経済的支援、子どもの遊び場の拡充 など
保育所(園)	子育て情報等の情報提供の充実、経済的支援、子どもの遊び場の拡充、保育士の待遇向上、病児保育施設の拡充、保護者が希望する施設への入所・入園 など
認可外保育施設	経済的支援(施設、保護者)、子どもの遊び場の拡充、施設のあり方への支援、施設の実態把握 など
小学校	子育て情報等の情報提供の充実、経済的支援(施設、保護者、関係団体)、子どもの遊び場の拡充、人材確保、文化・スポーツ面における体験活動の実施 など
中学校	子育て情報等の情報提供の充実、経済的支援(施設、一人親家庭)、子どもの遊び場の拡充、文化・体育施設の充実、人材確保、1学級の生徒数の減 など
高等学校	経済的困難家庭の生徒に対する支援(上級学校進学、経済的)、情報提供の充実 など
特別支援学校	障がい児が活動できる場の充実・確保、子育て情報等の情報提供の充実 など

問5 子ども自身、家庭、地域社会に求めたいこと、望むことはありますか。

① 子ども自身

	件数	割合
親・大人との関係	4	3.1%
社会性・道徳性を身につける(礼儀、言葉遣い、物事の善悪、ルールなど)	28	21.5%
基本的生活習慣の自立	8	6.2%
心の育ち(子どもらしさ、思いやり、やさしさなど)	19	14.6%
生きる力(夢、意欲、信頼など)	18	13.8%
ボランティアや体験活動の増加	13	10.0%
その他	17	13.1%
計	107	

※着色した数値は回答率の上位1項目を表す。

②家庭

	件数	割合
親の子育て意識・姿勢・責任	29	22.3%
子どものしつけ	22	16.9%
家庭でのコミュニケーション	20	15.4%
地域住民との交流(親・老若世代との交流、行事への参加など)	13	10.0%
学校の取り組みに対する理解、信頼、協力、連携	11	8.5%
その他	23	17.7%
計	118	

※着色した数値は回答率の上位1項目を表す。

③地域社会

	件数	割合
緊急避難所の提供、安心して遊べる場所	7	5.4%
子育て応援体制づくり(子どもの社会性・道徳性の育成助言など)	36	27.7%
地域における行事やイベント	6	4.6%
子ども会・婦人会の活性化	1	0.8%
子育て家庭間の交流機会づくり	3	2.3%
地域との情報交換・情報提供	7	5.4%
保育所・幼稚園・小中学校との連携(学校行事参加、人材活用など)	16	12.3%
その他	21	16.2%
計	97	

※着色した数値は回答率の上位1項目を表す。

- ◆子ども自身に対しては「社会性・道徳性を身につける(礼儀、言葉遣い、物事の善悪、ルールなど)」(21.5%)と回答した団体が最も多くなっており、平成22年度(24.0%)から2.5ポイント減少している。
- ◆家庭に対しては「親の子育て意識・姿勢」(22.3%)と回答した団体が最も多くなっており、平成22年度(48.8%)から26.5ポイント減少している。
- ◆地域社会に対しては「子育て応援体制づくり(子どもの社会性・道徳性の育成助言など)」(27.7%)と回答した団体が最も多くなっており、平成22年度(10.4%)から17.3ポイント増加している。

問6 子ども・子育て支援に関して、その他ご要望、ご意見がありましたら、ご記入ください。【自由記載】

	件数	割合
①各団体などへの経済的支援に関する事	6	4.6%
②相談窓口の整備・充実に関する事	1	0.8%
③子育てに関する経済的支援に関する事	4	3.1%
④情報提供に関する事	8	6.2%
⑤関係機関との連携に関する事	4	3.1%
⑥行政(職員)の対応に関する事	13	10.0%
⑦医療の充実に関する事	0	0.0%
⑧子育てに関するその他事業(予算)への具体的要望・提案に関する事	9	6.9%
⑨その他	19	14.6%
計	64	

※着色した数値は回答率の上位1項目を表す。

3 自由記載欄の意見一覧

問6【記載内容】

①各団体などへの経済的支援に関すること	
1	行政の保護が保育園に片寄っているように感じる。幼稚園の運営の苦しみも理解してほしい。就園奨励費に園への対応があっても良いのでは。
2	保育園・幼稚園・小学校・中学校に支援の目を向けてほしい。
3	子供・子育て支援に関しては、やはりマンパワー、資金、場所の確保が大切になると思います。
4	資金不足は分るが、資金はある程度必要ではないかと思う。
5	今制度が変わり、特に子育て支援も叫ばれています。各保育園、又他の事業所も取り組んでいると思います。例えば保育所は5か所の園で、子育て支援の資金収入があります。どこの園でも子育て支援は資金がない中一生懸命取り組んでいます。今一度、5か所の園のみでなく行き渡るようにしてもらえたらありがたいと思います。
6	経済的支援だけして済む問題ではないという批判がありますが、そこをまず充実させることです。その先は当事者が知恵を絞って努力していくはず。
②相談窓口の整備・充実に関すること	
1	必要としている人に情報や保育の機会などが十分に行き届くような社会全体への協力体制を整えていってほしい。
③子育てに関する経済的支援に関すること	
1	幼児に対しては経済的支援。
2	高齢化社会で高齢者にばかり目を向けがちだが、子供に対してもっと資金面で手厚くしてほしい。
3	若い夫婦が子育てしやすい環境を整える。子供の学費の補助。
4	経済的支援だけして済む問題ではないという批判がありますが、そこをまず充実させることです。その先は当事者が知恵を絞って努力していくはず。
④情報提供に関すること	
1	浪岡地区も青森市内ということで、青森市内でのイベント等のチラシを大量に送付されることが日常的にある。子育て中の世帯は、よっぽどの関心がないと青森まで行って参加することはない。従って、通常の子育てに関するイベント等のチラシは、ポスターかチラシ1枚で適当です。
2	情報発信
3	子育て情報提供の拡充が重要。
4	小・中学校児童に関しては、楽しく参加できるイベントや行事を増やす。
5	青森市のホームページがリニューアルされ、とても見やすく分かりやすくなった。子育て支援の取り組みも分かりやすくて良い。町会のことを市ホームページに入れたらどうか。
6	保育所等の園待ちがとりざたされている。保育所、幼稚園との情報交換などをすすめ、選択しやすい条件を親に示してほしい。
7	発達障害者かな？と思う子供が相談する窓口が色々あるようだが、それぞれにどんな特徴がありどのような方法があるのか、園も保護者の方にももう少し分かりやすくお知らせしてほしい。
8	必要としている人に情報や保育の機会などが十分に行き届くような社会全体への協力体制を整えていってほしい。
⑤関係機関との連携に関すること	
1	青森市、警察、児童相談所、民生委員他各セクションの連携をもっと深めてほしい。
2	保健婦との連携、支援をする活動をもっと増やしてほしい。家庭訪問、施設、保育園、幼稚園他の関わりなど。
3	今後も協力し合って、1人1人の子に応じた支援をしていかなければならない。
4	本校児童数の増加に伴う普通教室増設により、数年以内に放課後児童会に貸すことのできる部屋がなくなる可能性がある。早めに話し合いや相談の機会をもつことが必要だと考えています。
⑥行政(職員)の対応に関すること	
1	本当に保育を必要としている人が入所できない現実がある。保護者はフルタイムで働いている自分より、求職中や本当に短時間のパートの人が優先順位が高いのはなぜか疑問に思っている方もいます。
2	担当部署等の統一を。
3	職員の人員増加。
4	新制度となり市の監査対象となるが、保育連合会の話によると、去年より監査官によっては指導せず(指導するだけの経験なし)独善的視点での摘発型の検査となっており、態度も傲慢で職務を勘違いしているとの事である。検査官の指導教育をしっかりと、指導型の監査としてほしい。
5	市役所内における横の関係。例えば、市教委と健康福祉部の具体的な強化連携が必要。
6	子供に関わることで何か新しい施策を出すと必ず学校現場にしわ寄せがきて迷惑している。今年度から始まった「放課後子供教室」も同じ。社教課の事前説明では、「場所だけ貸して欲しい」旨だったが、実際は違っている。よって市の政策には大いに不信感を持っており、行政の都合で動いてもらいたくない。

7	保護者向けの「子育て支援」に関する研修会を定期的に、各地域ごとに実施する等、家庭教育の充実のための機会を市が主体となって実施してくれると良いと思う。
8	青森市に住んで子供を育てたいと思えるような街づくり。
9	浪岡地区は青森市内でありながら生活圏は弘前(中弘南黒)であるため、相談・支援機関の利用の際、青森市内には行きにくいといった声がある。
10	H27年度から新制度になり、保育所でも書類を扱う仕事が増加した。多忙で保育現場を預かる保育士にも余裕がない状態です。新制度について市から詳しく説明して頂きたい。このままでは新制度が良い方向へ向かっていくのかどうか不安だらけです。
11	無駄な支出は避け、有意義な使い道を考えてほしい。偽装離婚、生活保護などもっときちんと調査すべきです。そういうものを見て育つ子供はかわいそうです。
12	障害児に関し、入園の受け入れについて保護者に対し「園に聞いてみてください」という市の対応に疑問を感じます。市は障害児に対し、もっと積極的に関わりを持ち、障害児の一番良い対応を皆で考える先頭に立ててほしいものです。
13	国で次々と保育代替事業を提供してきているが、市では採択していないとの一点張り、他(弘前市、八戸市、十和田市など)では県へ実施の意向を提出しているという現実はご存知でしょうか。当園のようなところはきっと待っていた内容ではなかったか。
⑧子育てに関するその他事業(予算)への具体的要望・提案に関すること	
1	遊び場の提供だけでなく、子育ての気づきとなる場や機会の提供。
2	30人学級を全学年に。特別支援教育支援員の複数配置。
3	放課後児童会の運営について。指導員が子供を甘やかすのではなく、ルールで縛るのでもなく、自主性を高められるよう研修して頂きたい。
4	各園共に、日々の業務を行いながらも支援できればという思いで協賛しているが、地区に園名は挙げられているが、参加しない?できない?場合の今後をどうお考えでしょうか。(支援取り組みへの賛否を伺った方がよいのでは)定員外枠について、在籍児童の兄弟が入所するという確かな事を各園で確認し、いない場合はそれ以外の方の入所枠とすることを年度末に決定してはどうか。
5	保育士不足の解消を図ること。
6	認可外をなくして、全て認可し、基準を守り、全ての子により良い保育・教育を平等にしてほしい。
7	学校の統廃合はこれ以上する必要はない。
8	駐車場等もきちんと確保された開放施設や子どもの遊び場、親子で楽しめるイベント開催
9	学校が活動の中心となる必要があるとしたら、先生の数を増やさないと(特に中学校)学校は何もできません。
⑨その他	
1	園開放もしているのでたくさんの方々が利用していただければ良いと思います。
2	子育て支援は子供を支援しているのか、親への支援なのか。行政に保育を任せっぱなしの親への意識の変化。
3	地域社会に存在する社会福祉団体としては、福祉の理念の元、出来る限り子育て支援に貢献するべきと思っています。しかし自園の子どもをおざなりにしてまでとはいかないのも事実ですので、バランスを保ちながら微力でもその力を発揮できればと思っています。
4	今、お父さん、お母さんが、土曜日日曜日もなく時間も遅くまで働かなくてはならない時代になり、その為親にもストレスが溜まり、子どもの話をゆっくり聞いてあげられなかったり、お互いストレスが溜まる。もう少し時間に余裕があればと思う。
5	子育て支援は昔に比べて随分良くなってきた。(先進諸国と比べればまだまだだと思いが…)行政側の取り組みは進んでいるが、企業側の取り組み(支援)が進んでいない。また、支援を受ける家庭も、それらの取り組みが税金で行われていることをしっかりと理解し、感謝の気持ちを持ってもらいたい。
6	途中入所の子供達の検診を保護者にお願ひできないか。交通事故他心配である。
7	親が子育てしやすい環境を整えてほしい。
8	子育て中の保育士への配慮。
9	保育園で働く者への理解。行政の施設側への理解がほしい。利用者の話にだけ傾かない。
10	身近に、子供達が楽しめる機会、場所が多くなって欲しい。
11	20年前の子育て支援に比べ経済的にも設備的にも整えられていると思う。しかし女性の就労率も上がり更に施設面もメンタル面でのケアもますます必要だと感じる。
12	本校に学ぶ生徒の中には何らかの障害(生活環境・学習能力・精神上)を抱えている者がいる。1人でも多く自立し、良き納税者として、良き家庭人として社会の担い手になってほしいと願っています。真の意味の自立支援を行政の力によって実現してほしいと願っています。
13	子供の為に、家族の為に現場では精一杯。様々な面においてゆとりがない。家庭に良い施設、便利さを優先するほど、教育者の学ぶ時間やりフレッシュできる時間が削られている。支援している側にも支援がほしい。

14	他人が頑張りすぎるのではなく、まず家庭が自覚して子育てするように、子供の時から様々な経験をして、自分自身が自覚を持つ。
15	現在の行き過ぎた商業主義は子供を誤った方向に導く可能性があるため、明確な規制をしっかりと構築すべきだ。スマホ依存が良い例である。テレビ等の放送も時間を考えずいくらでも流している。生活の乱れを誘う一因ともなっていると思う。
16	これ以上貧困問題が広がらないようにするための策は何が考えられるか、取り組む必要がある。
17	子どもをよく知って優しさが生まれるよう育てたい。
18	核家族と、豊かな文化の中で育つことが難しくなっている。「健康でかつ、自由が尊重される環境」が乏しい。将来の日本を平和で戦争のない国に荷う育成に明るく営みたい。
19	地域で子育てを支えるとは、地域の保育所や幼稚園に入所させて集団生活を学ばせることを言うのだが、地域のお年寄りや専業主婦は子供のお守りをしてもらおうことだと勘違いしている。地域社会、地域住人にはそんな能力はない。地域、地域といい加減なことを言わないで頂きたい。